

宮崎女子短期大学における幼稚園・ 保育所実習に関する調査研究(3)

濱田 芳子・佐々木昌代

Survey and Research on Miyazaki Women's Junior College Interns in Kindergarten and Nursery Teaching (3)

Yoshiko HAMADA・Masayo SASAKI

I. はじめに

本研究では、保育科・実習指導課の自己評価の一環として、学生が意欲を持って実習を体験し十分な達成感や満足感を得ることができるようとの願いと、そのためには、どのような実習環境を整えていくことができるかを求めようとして、アンケート調査による学生の自己評価を取り入れ、検証をすすめてきた。

平成7年度では、実習園選択にあたって、学生がより多くの情報を求めていることが確認され、保育科独自の実習オリエンテーションを実施するなど、実習園決定にかかわる手続きや基準をあらためて見直すとともに、実習指導についても若干の改善を行なった。さらに、希望者数や受け入れ園の都合によって学生の希望する園が実習園として決定されず、不満を持って実習手続きを行なったのではないかと考えられる学生の自己評価について分析したところ、手続き上の不満がどうであれ、実習内容そのものに満足であればプラス評価していた。学生は、実習園決定に至る手続きと実際の実習内容を明確に区別して、評価することが確認されたが、実習園決定に際しては個々の状況を吟味した柔軟な対応と配慮も必要であることが認められた。

平成8年度では、実習園に対しても同様のアンケート調査を実施して検討をすすめた。教員の实習園訪問報告書を見ると、「やる気がみえない」、「積極性に欠ける」といった実習園からの指摘も散見され、目的意識・意欲に対する実習園の評価が学生自身の評価に比較して低いのではないかと危惧されたが、幼稚園、保育所ともに高い評価を得た。しかしながら、実際的な保育力を育成しようとする実習園と、子どもたちや先生方と関わることから実習に取り組もうとする学生との意識や立場の違いもあって、学生の目的意識や意欲は、気持ちとしてはあるが、十分に行動や態度として表現されているとはいえない状況も認められた。

そこで、今回(平成9, 10年度)は、学生がどんな目標を持って実習にのぞみ、どのように具体化され、達成されたかを検討することから実習指導の改善点を明らかにしようとした。

Ⅱ. 目的

学生の幼稚園・保育所実習に対する自己評価について、次の(1)～(3)の視点から分析、検討し、実習指導の改善点を明らかにする。

- (1) 実習に当たって、学生はどのような目標を持ってのぞんでいるか
- (2) 実習に対して、目標設定とその具体化に関わって、学生はどのような自己評価を行なっているか
- (3) 実習に対する学生の自己評価について、実習園の成績評価と比較し、どの程度の整合性があるか

Ⅲ. 方法

実習終了後にアンケート調査を実施した。なお、比較考察のため、平成8年度にアンケート調査を実施した実習園および学生の自己評価を参考資料とした。

- (1) 対象とした実習
 - 1997年2月保育所実習（保育実習Ⅰ）
 - 1997年6月幼稚園実習
 - 1997年11月保育所実習（保育実習Ⅱ）
 - 1998年2月保育所実習（保育実習Ⅰ）
 - 1998年6月幼稚園実習
 - 1998年11月保育所実習（保育実習Ⅱ）
- (2) 回収率
 - 1997年保育所実習：138名（回収率 93.2%）
 - 1997年幼稚園実習：144名（回収率 96.0%）
 - 1998年保育所実習：146名（回収率 98.0%）
 - 1998年幼稚園実習：143名（回収率100.0%）

IV. 結果

表1 どのような目標を持っていたのか

	ア	イ	ア・イ	ウ
1998年11月保育所実習	122(72.6%)	30(17.9%)	11(6.5%)	5(3.0%)
1998年 6 月幼稚園実習	97(67.8%)	32(22.4%)	12(8.4%)	2(1.4%)
1998年 2 月保育所実習	89(54.3%)	43(26.2%)	9(5.5%)	23(14.0%)
1997年11月保育所実習	118(73.8%)	29(18.1%)	11(6.8%)	2(1.3%)
1997年 6 月幼稚園実習	68(47.2%)	38(26.4%)	34(23.6%)	4(2.8%)
1997年 2 月保育所実習	74(52.1%)	46(32.4%)	2(1.4%)	20(14.1%)

ア はじめから明確な目標を持っていた

イ 実習経過とともにはっきりした目標、別な目標を持つようになった

ウ 明確な目標を持っていなかった

表2 目標が達成できたよ実習であったか

	十分	ほぼ十分	どちらともいえない	やや不十分	まったく不十分
1998年保育所実習	29(19.9%)	89(60.9%)	20(13.7%)	6(4.1%)	2(1.4%)
1998年幼稚園実習	27(18.9%)	72(50.3%)	37(25.9%)	7(4.9%)	0(0.0%)
1997年保育所実習	25(18.1%)	86(62.3%)	20(14.5%)	7(5.1%)	0(0.0%)
1997年幼稚園実習	31(22.1%)	75(53.6%)	26(18.6%)	8(5.7%)	0(0.0%)

表3 充実したよ実習ができていたと思えますか(実習園)

充実したよ実習ができたと思えますか(学生)

	十分	ほぼ十分	どちらともいえない	やや不十分	まったく不十分
1996年保育所実習(実習園)	30(27.0%)	63(56.8%)	11(9.9%)	6(5.4%)	1(0.9%)
1996年保育所実習(学 生)	76(50.0%)	70(46.0%)	5(3.3%)	1(0.7%)	0(0.0%)
1996年幼稚園実習(実習園)	23(24.2%)	65(68.4%)	5(5.3%)	2(2.1%)	0(0.0%)
1996年幼稚園実習(学 生)	96(63.6%)	48(31.8%)	7(4.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)

表4 評価票(実習園総合評価)

	秀(90~100)	優(80~89)	良(70~79)	可(60~69)	不可(59~)
1998年保育所実習	28(19.6%)	90(62.9%)	23(16.1%)	2(1.4%)	0(0.0%)
1998年幼稚園実習	21(14.7%)	65(45.4%)	53(37.1%)	3(2.1%)	1(0.7%)
1997年保育所実習	32(23.9%)	78(58.2%)	23(17.2%)	1(0.7%)	0(0.0%)
1997年幼稚園実習	21(14.6%)	76(52.7%)	41(28.5%)	5(3.5%)	1(0.7%)

表5 目標達成に関わる自己評価（幼稚園実習）

	十分	ほぼ十分	どちらともいえない	やや不十分	まったく不十分	無回答
①目的意識・意欲(1998)	48(33.6%)	73(51.0%)	18(12.6%)	4(2.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)
①目的意識・意欲(1997)	88(45.3%)	69(35.6%)	30(15.5%)	6(3.1%)	1(0.5%)	0(0.0%)
②事前学習(1998)	7(4.9%)	42(29.4%)	55(38.4%)	34(23.8%)	5(3.5%)	0(0.0%)
②事前学習(1997)	2(1.4%)	31(21.5%)	48(33.3%)	58(40.3%)	3(2.1%)	2(1.4%)
③専門的知識・技術(1998)	4(2.8%)	23(16.1%)	85(59.4%)	30(21.0%)	1(0.7%)	0(0.0%)
③専門的知識・技術(1997)	1(0.7%)	24(16.7%)	67(46.5%)	45(31.2%)	4(2.8%)	3(2.1%)
④研究保育(1998)	8(5.6%)	50(35.0%)	51(35.6%)	26(18.2%)	8(5.6%)	0(0.0%)
④研究保育(1997)	11(7.6%)	50(34.7%)	40(27.8%)	36(25.0%)	6(4.2%)	1(0.7%)
⑤子ども達との関わり(1998)	64(44.8%)	66(46.1%)	13(9.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
⑤子ども達との関わり(1997)	63(43.7%)	76(52.8%)	4(2.8%)	1(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)
⑥先生方とのコミュニケーション(1998)	44(30.8%)	62(43.3%)	29(20.3%)	7(4.9%)	0(0.0%)	1(0.7%)
⑥先生方とのコミュニケーション(1997)	39(27.1%)	65(45.1%)	24(16.7%)	14(9.7%)	1(0.7%)	1(0.7%)
⑦園の保育方針等の理解(1998)	25(17.5%)	67(46.8%)	38(26.6%)	10(7.0%)	1(0.7%)	2(1.4%)
⑦園の保育方針等の理解(1997)	23(16.0%)	73(50.7%)	37(25.7%)	10(6.9%)	1(0.7%)	0(0.0%)
⑧保育者としての適性(1998)	10(7.0%)	45(31.5%)	76(53.1%)	10(7.0%)	1(0.7%)	1(0.7%)
⑧保育者としての適性(1997)	8(5.5%)	47(32.2%)	80(54.8%)	10(6.8%)	1(0.7%)	0(0.0%)

表6 実習園項目別評価（幼稚園実習）

	秀< 5 >	優< 4 >	良< 3 >	可< 2 >	不可< 1 >
①勤務状況(1998)	59(41.2%)	44(30.8%)	29(20.3%)	9(6.3%)	2(1.4%)
①勤務状況(1997)	62(43.0%)	56(38.9%)	18(12.5%)	7(4.9%)	1(0.7%)
②保育指導(1998)	12(8.4%)	55(38.5%)	67(46.8%)	8(5.6%)	1(0.7%)
②保育指導(1997)	15(10.4%)	43(29.9%)	72(50.0%)	10(6.9%)	4(2.8%)
③幼児理解・援助(1998)	18(12.6%)	65(45.4%)	49(34.3%)	11(7.7%)	0(0.0%)
③幼児理解・援助(1997)	24(16.7%)	66(45.8%)	40(27.8%)	12(8.3%)	2(1.4%)

表7 充実したよい実習に繋がったと思われる理由（1996年幼稚園実習）

	十分	ほぼ十分	どちらともいえない	やや不十分	まったく不十分	無回答
①目的意識・意欲(実習園)	42(36.2%)	54(46.6%)	14(12.1%)	4(3.4%)	0(0.0%)	2(1.7%)
①目的意識・意欲(学生)	53(35.1%)	74(49.0%)	22(14.6%)	2(1.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
②事前学習(実習園)	18(15.5%)	44(38.0%)	39(33.6%)	10(8.6%)	5(4.3%)	0(0.0%)
②事前学習(学生)	9(6.0%)	44(29.1%)	66(43.7%)	30(19.9%)	2(1.3%)	0(0.0%)
③専門的知識・技術(実習園)	4(3.4%)	55(47.4%)	48(41.4%)	8(6.9%)	0(0.0%)	1(0.9%)
③専門的知識・技術(学生)	5(3.3%)	35(23.2%)	83(54.9%)	27(17.9%)	1(0.7%)	0(0.0%)
④研究保育(実習園)	7(6.0%)	80(69.0%)	22(19.0%)	6(5.2%)	0(0.0%)	1(0.8%)
④研究保育(学生)	13(8.6%)	49(32.5%)	52(34.4%)	32(21.2%)	5(3.3%)	0(0.0%)
⑤子ども達との関わり(実習園)	41(35.3%)	57(49.2%)	13(11.2%)	5(4.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
⑤子ども達との関わり(学生)	79(52.3%)	64(42.4%)	6(4.0%)	2(1.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
⑥先生方とのコミュニケーション(実習園)	33(28.4%)	45(38.9%)	29(24.9%)	9(7.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)
⑥先生方とのコミュニケーション(学生)	38(25.2%)	79(52.3%)	24(15.9%)	8(5.3%)	2(1.3%)	0(0.0%)
⑦園の保育方針等の理解(実習園)	19(16.4%)	57(49.1%)	35(30.2%)	5(4.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
⑦園の保育方針等の理解(学生)	29(19.2%)	79(52.3%)	36(23.8%)	6(4.0%)	1(0.7%)	0(0.0%)
⑧保育者としての適性(実習園)	33(28.4%)	50(43.1%)	27(23.3%)	6(5.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
⑧保育者としての適性(学生)	5(3.3%)	51(33.8%)	80(52.9%)	9(6.0%)	6(4.0%)	0(0.0%)

表8 目標達成に関わる自己評価（保育所実習）

	十分	ほぼ十分	どちらともいえない	やや不十分	まったく不十分
①目的意識・意欲(1998)	38(26.0%)	87(59.6%)	15(10.3%)	5(3.4%)	1(0.7%)
①目的意識・意欲(1997)	41(29.7%)	74(53.6%)	20(14.5%)	3(2.2%)	0(0.0%)
②事前学習(1998)	4(2.7%)	46(31.5%)	64(43.8%)	30(20.6%)	2(1.4%)
②事前学習(1997)	2(1.4%)	39(28.3%)	63(45.7%)	32(23.2%)	2(1.4%)
③専門的知識・技術(1998)	1(0.7%)	29(19.9%)	86(58.9%)	26(17.8%)	4(2.7%)
③専門的知識・技術(1997)	1(0.7%)	25(18.1%)	86(62.3%)	24(17.4%)	2(1.5%)
④研究保育(1998)	7(4.8%)	61(41.8%)	47(32.2%)	19(13.0%)	12(8.2%)
④研究保育(1997)	20(14.5%)	50(36.2%)	38(27.5%)	22(16.0%)	8(5.8%)
⑤子ども達との関わり(1998)	73(50.0%)	62(42.5%)	10(6.8%)	1(0.7%)	0(0.0%)
⑤子ども達との関わり(1997)	70(50.7%)	50(36.2%)	18(13.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)
⑥先生方とのコミュニケーション(1998)	28(19.2%)	75(51.4%)	33(22.6%)	10(6.8%)	0(0.0%)
⑥先生方とのコミュニケーション(1997)	39(28.3%)	66(47.8%)	27(19.6%)	5(3.6%)	1(0.7%)
⑦所の保育方針等の理解(1998)	16(11.0%)	67(45.9%)	51(34.9%)	9(6.2%)	3(2.0%)
⑦所の保育方針等の理解(1997)	19(13.8%)	62(44.9%)	50(36.2%)	7(5.1%)	0(0.0%)
⑧保育者としての適性(1998)	6(4.1%)	62(42.5%)	70(47.9%)	8(5.5%)	0(0.0%)
⑧保育者としての適性(1997)	3(2.2%)	49(35.5%)	79(57.2%)	7(5.1%)	0(0.0%)

表9 実習園項目別評価（保育所実習）

	秀< 5 >	優< 4 >	良< 3 >	可< 2 >	不可< 1 >
①勤務状況(1998)	68(47.5%)	50(35.0%)	15(10.5%)	10(7.0%)	0(0.0%)
①勤務状況(1997)	72(53.7%)	45(33.6%)	15(11.2%)	2(1.5%)	0(0.0%)
②保育指導(1998)	13(9.1%)	75(52.4%)	50(35.0%)	3(2.1%)	2(1.4%)
②保育指導(1997)	21(15.7%)	65(48.5%)	44(32.8%)	3(2.2%)	1(0.8%)
③幼児理解・援助(1998)	25(17.5%)	84(58.7%)	28(19.6%)	6(4.2%)	0(0.0%)
③幼児理解・援助(1997)	30(22.4%)	71(53.0%)	29(21.6%)	4(3.0%)	0(0.0%)

表10 充実したよい実習に繋がったと思われる理由（1996年保育所実習）

	十分	ほぼ十分	どちらでもない	やや不十分	まったく不十分	無回答
①目的意識・意欲(実習園)	37(28.9%)	67(52.3%)	15(11.7%)	8(6.3%)	0(0.0%)	1(0.8%)
①目的意識・意欲(学生)	56(36.8%)	83(54.6%)	12(7.9%)	1(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)
②事前学習(実習園)	19(14.8%)	65(50.7%)	29(22.7%)	8(6.3%)	1(0.8%)	6(4.7%)
②事前学習(学生)	9(5.9%)	62(40.8%)	58(38.2%)	21(13.8%)	2(1.3%)	0(0.0%)
③専門的知識・技術(実習園)	7(5.5%)	59(46.0%)	44(34.4%)	10(7.8%)	1(0.8%)	7(5.5%)
③専門的知識・技術(学生)	11(7.2%)	47(30.9%)	72(47.4%)	19(12.5%)	3(2.0%)	0(0.0%)
④研究保育(実習園)	12(9.4%)	83(64.8%)	13(10.2%)	8(6.3%)	3(2.3%)	9(7.0%)
④研究保育(学生)	15(9.9%)	57(37.5%)	29(19.1%)	28(18.4%)	7(4.6%)	16(10.5%)
⑤子ども達との関わり(実習園)	44(34.4%)	68(53.2%)	9(7.0%)	4(3.1%)	0(0.0%)	3(2.3%)
⑤子ども達との関わり(学生)	102(67.1%)	46(30.2%)	3(2.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.7%)
⑥先生方とのコミュニケーション(実習園)	28(21.9%)	59(46.1%)	30(23.4%)	7(5.5%)	0(0.0%)	4(3.1%)
⑥先生方とのコミュニケーション(学生)	46(30.3%)	68(44.7%)	30(19.7%)	7(4.6%)	1(0.7%)	0(0.0%)
⑦園の保育方針等の理解(実習園)	10(7.8%)	65(50.8%)	41(32.0%)	6(4.7%)	0(0.0%)	6(4.7%)
⑦園の保育方針等の理解(学生)	30(19.7%)	79(50.1%)	35(23.0%)	11(7.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
⑧保育者としての適性(実習園)	32(25.0%)	68(53.2%)	19(14.9%)	6(4.6%)	0(0.0%)	3(2.3%)
⑧保育者としての適性(学生)	16(10.5%)	61(40.1%)	65(42.8%)	7(4.6%)	2(1.3%)	1(0.7%)

表A-① 自己評価別実習園総合評価（1997年幼稚園実習）

自己評価	平均点	秀	優	良	可	不可	計
十分	82.19	4	19	8			31
ほぼ十分	81.60	13	37	23	2		75
どちらともいえない	80.00	3	15	5	2	1	26
やや不十分	77.88	1	1	5	1		8
まったく不十分							
無回答	82.50		4				4

表A-② 自己評価別実習園総合評価（1998年幼稚園実習）

自己評価	平均点	秀	優	良	可	不可	計
十分	83.37	6	14	7			27
ほぼ十分	81.50	11	35	23	2	1	72
どちらともいえない	78.89	3	15	18	1		37
やや不十分	79.71	1	1	5			7
まったく不十分							

表B-① 自己評価別実習園総合評価（1997年保育所実習）

自己評価	平均点	秀	優	良	可	不可	計
十分	86.50	8	12	4			24
ほぼ十分	84.87	20	52	11	1		84
どちらともいえない	82.78	3	9	6			18
やや不十分	85.00	1	5	1			7
まったく不十分							
無回答	71.00			1			1

表B-② 自己評価別実習園総合評価（1998年保育所実習）

自己評価	平均点	秀	優	良	可	不可	計
十分	83.71	4	19	5			28
ほぼ十分	84.02	20	54	13	2		89
どちらともいえない	84.00	3	12	3			18
やや不十分	81.00		4	2			6
まったく不十分	85.00	1	1				2

<記述回答 目標設定>

はじめから明確な目標を持つてのぞんだ

<1997年 2月 保育所実習>

- 子どもの名前を覚え、特徴を掴み、積極的に関わる 21
- 保育所の一日の流れを把握、援助の仕方など保母の仕事を現場から学ぶ 12
- 分からないことが多いので、子どもとの関わり方や保育所の現状を学ぶ 12
- ピアノ、絵本の読み聞かせなど学習したことを発揮して、一生懸命に、満足できるようにやる 6
- 子どもとたくさん遊び、仲良くし、楽しく実習する 5

<1997年 6月 幼稚園実習>

- 笑顔で積極的に関わる 14
- 子どもと同じ目の高さに立ち、子どもの立場で考え、話しかけ行動する 14
- 多くの子どものに接し、たくさん遊び、楽しみ、共感し合う 10
- 幼稚園の一日の流れを知り、保育所との違いを確かめる 10
- 教師が子どもや場面にあった援助や指導、言葉かけをどうしているか観察して自分のものにする 10

<1997年 11月 保育所実習>

- 一人ひとりにあった、その場に応じた言葉かけ、接し方、援助の仕方を心掛ける 27
- 積極的に保育に取り組む、自分を出し切る、指示を待たず自主的に行動する 27
- 2月の実習や幼稚園実習で学んだことを生かす 10
- 研究保育にあたって、資料集めや教材準備と同時に子どもの心を掴み、接し方を考える 8
- 子どもの反応を観察して改善点を確認、失敗の中から弱点や反省点を見つけて克服する 8

実習の経過とともにはっきりした目標、実習前とは別な目標を持つようになった

<1997年 2月 保育所実習>

- 子どもとの接し方や言葉かけの仕方をどうすればよいか考える 9
- 行動や発達していく姿を観察し、子ども一人ひとりを理解、共感する 9
- 子どもの目線や立場で、言葉かけや対応をする 4
- 保育の流れを掴み、次にやることを明確にして積極的に行動する 3
- 積極的に子どもと関わり、行動する 3

<1997年 6月 幼稚園実習>

- 適切で安心できる言葉かけを心掛け、言葉かけのレパトリーを持つ 10
- 子ども一人ひとりの個性を理解し、それを生かしながら接していく 8
- 子どもと多く接し、たくさん遊ぶ 8
- みんなの中に入れないう子どもを含め、楽しく遊ぶためにはどうするか考える 4
- 積極的に動く、積極性が必要 4

<1997年 11月 保育所実習>

- 一人ひとりにあった、引き付ける言葉かけを工夫して、子どもを理解するようにした 6
- 保育者が子どもの月齢や個人差、その日の体調によって援助や配慮をどのように変えているかみる 4
- 子どもの心に寄り添う配慮をし、理解する 4
- 保育者の姿を中心にみる、保育者の立場を考える 2
- 積極的に保育者に相談する、積極的に取り組む 2

はじめから明確な目標を持ってのぞんだ

<1998年 2月 保育所実習>

- 子どもと一緒にたくさん遊び、仲良くし、楽しく実習する 21
- 何事も意欲的に積極的に取り組み、多くの子どもと接する 15
- 保育所の一日の流れを把握、雰囲気慣れ、保育者の仕事を観察する 12
- 保母の行動と役割を観察、話を聞きながら、言葉かけや援助の仕方を学び、理解する 12
- 健康管理に気を付け、挨拶は元気よく、笑顔を絶やさないように心掛ける 6

<1998年 6月 幼稚園実習>

- 子どもと一緒にたくさん遊ぶ、名前を覚えてたくさん接する 34
- いつも笑顔を絶やさない 17
- 一人ひとりの個性をみつけ、その場にあった言葉かけをする 17
- 教師の子どもに接する姿、言葉かけをみる 9
- 内面、興味・関心など、子どものことを知る 8

<1998年 11月 保育所実習>

- 子どもの名前を覚え、個性や特徴、年齢にあった言葉かけや援助を学び実践する 31
- 子どもの興味・関心、何ができるか、どう心を掴むかを考えて研究保育に生かす 15
- 子どもと一緒にたくさん遊び、楽しく過ごす 11
- 研究保育にあたって、資料集めや教材準備、指導計画などの事前準備をする 9
- 2月の実習を踏まえ、実習日誌を細かく記録、適切な援助や配慮ができるようにする 8

実習の経過とともにはっきりした目標、実習前とは別な目標を持つようになった

<1998年 2月 保育所実習>

- 自分から積極的に言葉をかけ、子どもと関わる 7
- 子ども一人ひとりの考えを読み取り、個性にあった接し方を考える 6
- 保育所の一日の流れを掴み、保母の言葉かけや援助の仕方を観察する 6
- 楽しくふれあい、観察することで、子どもを理解する 4
- 保育所の一日の流れを把握する 3

<1998年 6月 幼稚園実習>

- 個々の子どもに応じた、その場に応じた言葉かけや援助の仕方を考える 15
- 元気に楽しく、積極的に遊ぶ 5
- 活動に興味を持てるように、引き付けるように、導入や説明を分かりやすく楽しくする 4
- 子どもと接する中で、子どもの目の高さで話し対応することの重要性に気付いた 4
- 子ども一人ひとりと接して性格を把握し、的確に対応できるようになる 3

<1998年 11月 保育所実習>

- 言葉かけを心掛け、声の強さやはっきり大きく言うことを目標にした 4
- 子どもと接する中で、月齢差や個人差、その日の体調によって援助や配慮をどうするか考える 4
- 子どもと遊びながら、発達段階をみる 2
- 保育者とのコミュニケーションを大切にして信頼関係ができるようにする 2

<記述回答 目標達成に関わる自己評価について>

目的意識・意欲

<1997年 幼稚園実習>

- 自分なりの目標を持ち、意欲的に取り組めた 5
- たくさんの子どもと積極的に接した 3
- 意欲はあったが気を抜いてしまい何となくだった、自分を出せなかった 3
- 意欲を持って取り組んだが、もっと疑問を持ちながらのぞむ必要があった 1
- 目的を持ってのぞんだら、もっと子どものいろいろな面がみえたかもしれない 1

<1997年 保育所実習>

- 総まとめと考え、現場で保育内容を身に付け、子どもの成長ぶりをみようと意欲は十分持っていた 9
- 自分なりの目標を達成できるよう一生懸命に取り組む、充実した実習だった 9
- 2月の実習ではできなかったが、11月では全員の子どもと接し、積極的に質問、行動できた 7
- 目的をはっきり持っていなかった、持つ必要を実習中に気付いた 2
- 意識や意欲は十分だったが、技術が伴わなかった 1
- 目的がなかったわけではないが、意欲ややる気が自分にはみられなかった 1

事前学習

<1997年 幼稚園実習>

- ピアノ、手遊びなど今幼稚園で行なわれていることを聞いて、練習していった 4
- 年齢ごとの特徴や遊びを研究していった 3
- 翌日の紙芝居、絵本、パネルシアター、ピアノなど練習していった 2
- パネルシアターや紙芝居など部分保育の教材を用意しておけばよかった 7
- ピアノの練習不足、賛美歌や仏参曲に苦労した 7
- 事前に明確な目標や研究保育の内容を決めておらず、学習不足 4

<1997年 保育所実習>

- 絵本や紙芝居の前読み、手遊びやゲームなどを練習、準備した 6
- 教科書や専門書を読み直し、保育者を参考にして、いつでもできる状態で取り組んだ 3
- 前回の実習を振り返り、同じ失敗を繰り返さないようにした 2
- 研究保育は準備が遅れた、早くすればいいもののができたと思う 6
- 子どもの興味を引く手遊びなどを練習しておけばよかった 6
- 実習がはじまってから準備したことが多い 2

専門的知識・技術

<1997年 幼稚園実習>

- ピアノはだいたい弾けた、学校で学んだことが役立ち、伴奏もつけられた 9
- 教師の立つ位置や言葉かけなど、学校では学べない知識・技術があり、経験が大切と思った 4
- 講義や実習で得たものは自然に出てくると思ってのぞんだ 2
- 先生方との差が大きく、子どもをまとめたり、引き付けたりする言葉かけなど対応が難しい 10
- ピアノが不十分、幼稚園の曲が練習不足 7
- 全てにまだまだ不十分、これから勉強しなければならない 4

<1997年 保育所実習>

- 実習を重ねるごとに体得できると思う 7
- 前回は学んだことが生かされた、日誌もスムーズに書けるようになった 2
- あらためて勉強不足を痛感、講義をまじめに受けておけばよかった、保育の奥深さを感じた 9
- ピアノを弾きながら歌の先読みが不十分 3
- 学んだことは山ほどあったが、子どもに使える役立つものは少なかった 2

目的意識・意欲

<1998年 幼稚園実習>	
○遊びが発展するような言葉かけを心掛け、それによって子どもにイメージが広がった	4
○意欲十分	4
○積極的に、精一杯に取り組んだ	4
●意欲はあっても、簡単に身に付けられない	1
●実習前から教材準備をしたが、練習せず本番を迎えた	1
<1998年 保育所実習>	
○意欲十分、目的も明確で意欲も充実していた	18
○積極的に、一生懸命に、頑張っ取組もうとした	6
○毎日子どもに会うのが楽しく、前向きに取り組めた	6
●目的意識・意欲はあったが、十分発揮できない	5
●意欲不十分、2回目は緊張感なく準備をせず消極的だった	5
●就職と実習の両方の不安で、意欲はあまりなかった	1

事前学習

<1998年 幼稚園実習>	
○パネルシアター、絵本、紙芝居などを用意、どんな遊びがあるか調べた	14
○幼稚園で弾く曲を聞き、ピアノの練習をした	5
●準備不足、ピアノは練習不足	10
●実際やってみると十分ではなかった、下読みしていけばよかった	2
<1998年 保育所実習>	
○ピアノ、手遊び、絵本、紙芝居などを実習前に練習、役に立った	20
○パネルシアター、絵本、紙芝居など子どもの年齢にあったものを準備した	12
○図書館で保育に関する参考書を読んだ	8
●特に準備していない	6
●ピアノを練習しておけばよかった	5
●パネルシアター、手遊び、紙芝居を準備すればよかった	4

専門的知識・技術

<1998年 幼稚園実習>	
○手遊び歌をたくさん覚えていった	2
○豊富な言葉を身に付けておくとよい	2
●ピアノは練習不足	7
<1998年 保育所実習>	
○手遊び、紙芝居、パネルシアターは練習した、楽しく聞いてくれた	4
○その場に応じた言葉かけや援助の仕方を学んだ	4
○2月の実習ではあいまいだったが、11月の実習では自信が付きはつきりと言葉かけができるようになった	1
●ピアノは練習不十分	10
●子どもの発達段階の理解不十分、勉強不足で、言葉かけや援助の仕方などに困ることがあった	10
●学校で学んだことを身体で表すのが難しく、経験しないと分からない	5

研究保育

<1997年 保育所実習>

- | | |
|---|----|
| ○時間がかかったが、子どもが楽しめる活動だった | 10 |
| ○何日も前から担任と相談して指導案を考え、子どもや先生方に評判よく成功した | 6 |
| ○知識・技術は不十分だが、自分の出せるものは出した | 4 |
| ○自分では失敗したと思ったが、子どもから「楽しかった」「またしてね」と言われ、うれしかった | 4 |
| ●反省すべき点が多い、援助や配慮不足、準備物不足 | 13 |
| ●時間配当、予想外の出来事への対応が不十分 | 6 |
| ●準備をし過ぎた、年齢より高度な作業をさせてしまった | 4 |
| ●子どもを動かす難しさを感じた、流れを考えると経験を積むことだと思った | 4 |

<1997年 保育所実習>

- | | |
|--|----|
| ○反省点はあるが、子どもは興味を持って集中して楽しんだ | 14 |
| ○先生方の温かい指導と励ましがあがり、自分では満足している | 5 |
| ○事前に準備し指導案を提出してあったのでスムーズにでき、年齢にあった内容で楽しそうだった | 5 |
| ○大変だったがいい経験になった、子どもに教えられた | 5 |
| ●知識不足、準備不足、指導案と下準備を何度もやり直した | 12 |
| ●子どもの活動予測を浅く考えていた、年齢を考えて内容や教材を考えるべきだった | 5 |
| ●子どもは生き生きしていたがまとまりがなかった、運動遊びはまとめ方が難しい | 4 |

子どもたちとの関わり

<1997年 幼稚園実習>

- | | |
|---|----|
| ○一人ひとりと十分関わることができた | 14 |
| ○他のクラスの子にも声をかけ、自由遊びの時間に関わり子どもから近寄ってくるようになった | 11 |
| ○遊びに対する興味や要求、言葉など子どもをしっかり受け止めて対応するようにした | 11 |

<1997年 保育所実習>

- | | |
|---|----|
| ○全員の子どもの名前と顔を覚え、一緒になって楽しく遊び、多くの子どもと関わる | 21 |
| ○2月の実習で知っている子どもが多く、自然に子どもの中に入れた | 7 |
| ○自分から積極的に、どの子にも同じように関わる | 6 |
| ●話しかけてくる子どもとはよく遊んだが、なつかない子どもに対して配慮がなかった | 1 |
| ●楽しく関わられたが、保母として十分関わられたとはいえない | 1 |

先生方とのコミュニケーション

<1997年 幼稚園実習>

- | | |
|--|----|
| ○分からないときは質問、相談し、適切なアドバイスをいただき、よくしていただいた | 21 |
| ○子どもの降園後に、配慮の必要な子どもの指導や教師の仕事について教えていただいた | 5 |
| ○卒園生ということもあり、先生方によくしていただいた | 2 |
| ●園舎が同じ先生や担任としか交流がなかった | 2 |

<1997年 保育所実習>

- | | |
|---|----|
| ○積極的に質問し、子どもの性格や接し方などについて、やさしく丁寧に、適切な指導をいただいた | 32 |
| ○前回の緊張も解れ、先生方とコミュニケーションを取りながら保育を展開した | 9 |
| ○上からの圧迫感はなく、アドバイスの、距離を置かずに接することができ、個人的な話も聞いた | 8 |
| ●先生方の助言は有り難かったが、もっと積極的に話せたらよかった | 4 |
| ●発表会や行事で忙しく、あまり交流がなかった | 3 |

研究保育

<1998年 幼稚園実習>

- | | |
|---|----|
| ○反省点はあるが満足のいくものだった, 自分のできる限りのことをした | 5 |
| ○子どもの興味を引き, 集中して取りくんでくれた | 4 |
| ○子どもを観察した上で活動内容を選んだ | 3 |
| ●事前に準備をしても, 子どもの予期せぬ行動に思うようにできなかった, それを覚えておくべきだった | 13 |
| ●準備不足, 事前研究不足, 十分すぎる準備が必要 | 12 |
| ●環境構成, 分かりやすい言葉かけなど覚えておくべきだった | 6 |

<1998年 保育所実習>

- | | |
|---|----|
| ○全員が喜んで楽しく活動できた | 14 |
| ○年齢にあった活動ができ, 一人ひとりが満足感を味わえた, 喜んでくれた | 7 |
| ○自分なりに考えて取り組んだ, 2月の実習や幼稚園での実習の反省点を踏まえ, 気を付けた | 6 |
| ●準備不足, 説明不足, 安全面での配慮不足 | 17 |
| ●準備をしても子どもの反応は違い, まとめるのが難しい, 様々な状況を予測した言葉かけや援助を覚えておくべきだった | 10 |
| ●対象年齢に対する知識不足 | 8 |

子どもたちとの関わり

<1998年 幼稚園実習>

- | | |
|---------------------------------|----|
| ○常に子どもと関わりを持ち楽しく遊んだ | 26 |
| ○クラス以外の子どもとも接することができた | 6 |
| ○担任クラスの子どものとは十分に, 一人ひとりと深く関わられた | 6 |
| ●特定の子どものとだけ遊んでしまうことが多かった | 5 |
| ●仕事が多く, なかなか関われなかった | 2 |
| ●近付いてこない子どもに深く関われなかった | 1 |

<1998年 保育所実習>

- | | |
|-----------------------------------|----|
| ○元気よく積極的に関わった, 楽しく遊べた | 33 |
| ○一緒に遊ぶうちに心を開いて親しみ, よい関係を築けた | 9 |
| ○2回目だったので全員と接し, 子どもに溶け込み, 慕ってもらえた | 7 |
| ○名前を覚えて言葉をかけ, 子どもの立場や目線で話し, 耳を傾けた | 7 |
| ●クラスによって関わり方が違った | 4 |
| ●喧嘩の仲裁, 叱ることがうまくできない | 2 |

先生方とのコミュニケーション

<1998年 幼稚園実習>

- | | |
|--|----|
| ○毎日担任との反省会で親切に分かりやすい指導を受け, ためになった | 13 |
| ○子どものことや分からないことなどに相談にのってもらい, 的確なアドバイスやよい指導をいただいた | 10 |
| ○自主実習にいったので, 先生方とのコミュニケーションは十分だった | 2 |
| ●積極的に質問すればよかった, 主任の先生とのコミュニケーションは難しい | 4 |
| ●担任の先生とはコミュニケーションが取れたが, 他の先生とはあまり関われなかった | 3 |
| ●先生方の雰囲気に入れず, 分からないことを時々聞くだけだった | 2 |

<1998年 保育所実習>

- | | |
|--|----|
| ○分からないところは積極的に質問, 親切に納得のいくまで指導してもらった | 27 |
| ○2月の実習よりコミュニケーションが取れた, 雰囲気も和やかでやさしく教えてもらい, 保育の質問に加え普段の会話もできた | 16 |
| ○子どもや園の話, 保育の考え方や保母という仕事などについて話をしてもらい, 相談にのってもらった | 6 |
| ●積極的に関わるようにすればよかった | 6 |
| ●声をかけるタイミングやどこまで話に入っていいか分からず, あまり話さなかった | 6 |
| ●担任など特定の先生としか話さなかった | 4 |

園の保育方針の理解

<1997年 幼稚園実習>

- | | |
|--|---|
| ○園長の講話を聞き、理解して取り組んだ | 6 |
| ○しおりをもらって読んだ、資料をもらい話を聞いた | 4 |
| ○出身園だったので理解できた | 2 |
| ●モンテッソリの教具ははじめ分からなかった、先生方の意見が違いどう考えてよいか分からなかった | 2 |

<1997年 保育所実習>

- | | |
|--------------------------------------|---|
| ○自由保育で、子どもが自由に遊び考える環境だった | 4 |
| ○園長先生にうかがったので、そのことを考えてのぞんだ | 4 |
| ○自主実習を含め3回の実習で理解できた | 2 |
| ●保育方針はよく分からなかった | 2 |
| ●子どもの前に立つと、その場その場で精一杯で、保育方針の理解に欠けていた | 1 |

保育者としての適性

<1997年 幼稚園実習>

- | | |
|--------------------------------|---|
| ○充実した楽しい実習だった、向いていると思う | 6 |
| ●保育の仕事に就きたいが、今は自信がない | 5 |
| ●様々な点で不十分、反省することが多く、未熟さをかなり感じた | 4 |

<1997年 保育所実習>

- | | |
|--|---|
| ○実習を通して保母の仕事や役割を理解し、素敵な職業だと感じた、保母として働きたい | 7 |
| ○2月の実習より自信もやる気も出てきた、勉強して保育者になる夢に近付きたい | 5 |
| ○最後の実習で今まで学んだことが生かして、少しは自信が持てた | 3 |
| ●保母になってよいか不安になった、自分の力で引っ張っていく自信がない | 5 |

その他

<1997年 幼稚園実習>

- | | |
|------------------------------------|----|
| ○楽しく充実した実習だった、信頼関係もできた、満足感でいっぱい | 12 |
| ○保育現場の厳しさも学べてよい経験になった、いろんなことが身に付いた | 2 |

<1997年 保育所実習>

- | | |
|--|----|
| ○11月の実習は2月より積極的に楽しく、子どもを見る目や援助もでき、満足・充実感があり、保母になりたい | 10 |
| ○お遊戯会前で、現場で必要なことが見られた反面、日常の保育が見られなかった | 3 |
| ○2月より11月の実習の方が保母の仕事の難しさを痛感、子どもの背景の読み取り、親との連携の大切さを学んだ | 2 |

園の保育方針の理解

<1998年 幼稚園実習>	
---------------	--

- | | |
|---|---|
| ○自由でのびのびとした印象, 自由に遊ぶことから好奇心を引き出していた | 5 |
| ○出身園で, 遠い記憶がよみがえってきた | 2 |
| ●学校で学んだこととギャップがあった, カトリックで戸惑った | 2 |
| ●子どもを押さえ過ぎているような気がした, モンテッソリは子どもがかわいそうな気がする | 2 |

<1998年 保育所実習>	
---------------	--

- | | |
|--|----|
| ○自由保育でのびのびしていた, 自由な表現を引き出し, 思い切り遊べるよい環境だった | 11 |
| ○先生方の話や保育をみて, しおりを読んで理解した | 10 |
| ●よく分からなかった | 4 |
| ●お遊戯会前で, ほとんどその練習だった | 2 |
| ●仏教系で戸惑った | 2 |

保育者としての適性

<1998年 幼稚園実習>	
---------------	--

- | | |
|--------------------------------------|---|
| ○楽しく実習でき, 保育関係以外の仕事は考えられない | 6 |
| ○適性は分からないが, 子どもは可愛く, 足りない部分はあるが頑張りたい | 3 |
| ●何ともいえない | 5 |
| ●少人数の子どもはよいが, クラス全体は戸惑ってしまう | 3 |
| ●研究保育で自信をなくした, 現実に向き合って自信がなくなった | 2 |

<1998年 保育所実習>	
---------------	--

- | | |
|--|----|
| ○子どもと接するのが楽しく, 保育園で働けるのはうれしい, 未熟だが頑張りたい | 11 |
| ○不十分なことばかりで辛かったが, 向いている, 保母になりたい | 5 |
| ○一日中子どもといて苦にならない, 一日の変化をみていてとても楽しい | 4 |
| ○子どもと会えることで自分も頑張れる気がする, 保母という仕事に就きたい | 4 |
| ●まだまだ学ぶことが多い | 6 |
| ●集団への言葉かけやまとめることが不得意, 子どもの気持ちを分かってあげられない | 4 |
| ●自信を持たばよいと言われた, あまり自信がない | 4 |
| ●何ともいえない | 4 |

その他

<1998年 幼稚園実習>	
---------------	--

- | | |
|---------------------------|----|
| ○実習日誌を取り外しできるファイル形式にしてほしい | 30 |
| ○雰囲気がよく, 思い出に残る楽しい実習だった | 5 |

<1998年 保育所実習>	
---------------	--

- | | |
|---|----|
| ○実習日誌はノート形式でない方がよいといわれた | 12 |
| ○11月の実習は2度目でスムーズに進み, 保育現場に立て自覚ができ, 保育者になりたいと思った | 6 |

V. 結果について

(1) 学生が設定した実習の目標について

- 実習にのぞんで、ほとんどの学生が、「はじめから明確な目標を持つてのぞんだ」、「実習の経過とともに目標を明確にした」、「実習の経過とともによりはっきりした目標を持つようになった」と回答している。実習を重ねるごとに、「はじめから明確な目標を持つて実習にのぞんだ」とする学生の割合が多くなり、最初の実習である保育実習Ⅰでは、少なからずみられた「明確な目標を持つてのぞまなかった」とする学生は減少する。

実習経験を積むことで、学生の目標を持つて実習にのぞむという意識が高まっていくことがわかる。このような学生個々の、実習からの学びや学びの積み重ねは、できうるならば、体験発表やグループディスカッションなどによって、学生相互に共有化され、次回の実習や実際に保育者となって保育現場に出ていくときに生かせるように、少しずつでも、実習後指導として取り上げたいことである。

また、実習前指導としては、最初の実習であるとはいえ、保育実習Ⅰで20名以上の学生が明確な目標を持たずに実習にのぞんでいることや、実習経験を積んだ最後の保育実習Ⅱにおいても、数名の学生が目標を持つてのぞまなかったとしていることに対して、何らかの指導が必要と思われる。

- どのような内容を目標として設定しているかについて、記述回答を見ると、保育実習Ⅰでは、「子どもとの関わり方や保育所の現状を学ぶ」、「子どもと一緒にたくさん遊び、仲良くし、楽しく実習する」といった漠然、曖昧としていた目標が、保育実習Ⅱでは、「指示を待たず自主的に行動する」、「2月の実習を踏まえ、実習日誌を細かく記録する」、「失敗の中から弱点や反省点をみつけて克服する」といった明確、具体的な内容になっている。

また、保育実習Ⅰや幼稚園実習では、保育者の姿に注目しながら多くを学び取ろうとし、保育実習Ⅱでは、それまでの実習を踏まえて学んだことを生かそうとしている。さらに、実習の経過とともに目標を明確化したり、設定しなおすすめ場合には、「言葉かけのレパートリーを持つ」、「導入や説明を分かりやすく」、「月齢や個人差、その日の体調によって」といった詳細、具体的な内容になっている。

このように、学生の多くが実習の経過や実習経験を積み重ねて、より適当、妥当な目標を設定するようになっている。その一方で、僅かではあるが、保育実習Ⅱにおいても、「健康管理に気をつけ、笑顔で接する」といった初歩的な目標も散見され、目標を設定していない学生と同様に、何らかの指導が必要と思われる。

(2) 目標設定と関わって、目標をどのように具体化し、実習をどのように自己評価しているか

- 幼稚園実習では、ほぼ7割、保育所実習では、保育実習ⅠⅡを通してほぼ8割の学生が「十分」「ほぼ十分」目標が達成できたよい実習であったと回答している。前回（平成8年度）の調査では、単に充実したよい実習ができましたかという質問に対して、幼稚園実習、保育所実習ともに9割以上の学生が「十分」「ほぼ十分」と回答していた。その結果と比較すると、より低い達成

感を示している。自分で掲げた目標ではあっても、その目標を自分の評価基準として、達成できたか否かについて、学生なりに真摯に、いくらか厳しく自己評価した結果ではないかと思われる。

- 学生が掲げる目標についてみると、「子どもたちと積極的に関わる」、「先生方の言葉かけや援助の仕方を学んで自分のものにする」といった内容が多く、具体的な保育の内容や方法、保育技術に関する目標は少ない。

学校で学んで身に付けた知識や技術を介して、子どもたちと関わり、先生方から指導を受け、その知識や技術を確かなものにするというような発想からも、目標設定がなされるように、平素の授業において学生の意識を高める学習過程が配慮されなければならない。

また、附属幼稚園で実施される実習前指導（学外）に限られる実習までの保育現場との関わりについても、教育課程のスリム化が必要な現状では難しい問題ではあるが、実習に限らない学習意欲の向上にも繋がることと考えられるので、前向きな対策が模索されるべきである。その意味で、1年次の夏季休業中に勧められている自主実習の実態についても調査、把握する必要がある。

- 目標達成にかかわって、「十分」「ほぼ十分」の比率が多く達成感の高い自己評価項目は、「子どもたちとの関わり」、「目的意識・意欲」、「先生方とのコミュニケーション」である。一方、達成感の低い自己評価項目は、「専門的知識・技術」、「事前学習」、「保育者としての適性」、「研究保育」である。前回調査においても、学生の自己評価は同様の傾向であった。
- 学生の自己評価が低い項目、特に「研究保育」、「保育者としての適性」については、前回調査によれば、学生に比べて実習園の評価がより高かった。不十分なところを指摘しつつも、教材の創意工夫や取り組みの熱心さを認めて、概ね「ほぼ十分」と評価された。この評価は、不足は補って良い面は伸ばしたい、どんなに未熟であってもやってみなければ指導も助言もできないので、学校で学んだ保育の知識や技術をどんどん実習で試みてほしい、との学生に対する期待の現れであった。このことは実習指導を通して繰り返し学生に伝えているが、自己評価をみる限り、実習園の積極的に挑戦してほしいという期待に、依然として、十分には応えていない学生の状況がうかがわれる。
- この積極的な挑戦は、学生が意欲を持って試みると同時に、先生方から受け身でない指導を受けることが相俟って成り立つものである。そこで、「研究保育」の記述回答を、思い通りできたかどうかの達成感に関わってみてみると、達成感をもたらしている要因は、「子どもが楽しめる活動」、「子どもの興味を引き、集中して取り組んでくれた」といった子どもたちに保育内容や方法が受け入れられたことと、「自分のできる限りのことをした」、「自分の出せるものは出した」といった学生自身が全力投球できたことによるところが大きいようである。一方、達成感を得られなかった要因は、うまくできなかったというような結果にあるのではなく、「準備不足」、「配慮不足」、「準備物不足」といったやればできた、もっと頑張ればできたというような反省や後悔の念によるところがより大きいようである。この反省や後悔の念が、やるだけやって満足する「研究保育」ができるように、事前学習や準備について支援すべきことは言うまでもない。

それとともに、自分の力でやりとげようという意欲は大切にしなければならないが、実習園を訪問すると、「指導案をもう少し早い段階でみせてもらえると、適切なアドバイスができて、研究保育の失敗もなかったかもしれません」という話もしばしば耳にするので、遠慮することなく率直に指導を受けるとい意味でも積極的であってほしいということ、実習指導を通して十分に伝えたい。

(3) 学生の自己評価と実習園の成績評価との整合性

- 学生が自分で設定した目標を評価基準として、これまでより自分なりに厳しく評価していることによって、実習園の総合評価と比較しても、全体としては妥当な自己評価となっている。しかしながら、個々に対照してみると、「秀」の評価を受けながら自己評価は「まったく不十分」であったり、「不可」や「可」の評価を受けながら「ほぼ十分」と自己評価しているなど、全く評価が符合していない学生もみられる。これらの学生については、実習後の指導に配慮するとともに、その思いもしっかりと受けとめてやる必要があると考える。

- 学生の自己評価項目とそれに対応する実習園の項目別評価を比較してみると、「子どもたちとの関わり」と対応する「幼児理解・援助」、「目的意識・意欲」と対応する「勤務状況」はともにプラス評価が多いが、若干、学生の自己評価が高い。「研究保育」や「専門的知識・技術」と対応する「保育指導」はともにマイナス評価に傾いているが、どちらかという実習園の評価が高い。

このことを、学生の記述回答から見てみると、「専門的知識・技術」やそれを支える「事前学習」としては、「ピアノ」、「手遊び」、「紙芝居」といった目に見える保育技術を念頭に、練習して子どもたちに受け入れられ、先生方に評価されれば満足するようであるが、結果の是非が確認できるだけに、失敗すると大いに自己採点を割り引くようである。言うまでもないが、子どもたちの前に立って、それらをもっと練習、準備しておけばよかったといった状況を経験すると、さらに、自己評価は下がる。このことを踏まえ、実習に向けた指導では、目に見える、学生が自分で成果を確認できる内容については、学生が明確な目標を持って事前学習に取り組めるように支援するとともに、目先の安直な技術や方法論にのみ終始しないような指導も加味したい。

V. まとめ

学生の実習に対する自己評価の分析、検討から得られた実習指導上の改善点は、以下のようであった。

- (1) 明確な目標を設定していない学生、実習経過や実習経験を生かした目標設定ができていない学生は少数ではあるが、何らかの指導が必要である。
- (2) 学生の自己評価は、実習園の成績評価と比較しても、全体としては妥当な評価となっているが、実習後指導として、個別に対応が必要な大きく隔たった評価をしている学生も若干名認められた。
- (3) 実習園から期待される、失敗を恐れず取り組んで率直に指導を求める積極的な姿勢が、依然として、十分ではない状況がうかがえるので、実習前指導などを通じて、一層強く、学生に訴える必要がある。

- (4) 目標達成と関わって「研究保育」や「専門的知識・技術」に対する達成感が低い。保育活動として具体的に目標を達成するための、専門的な知識・技術を踏まえた課題設定、事前の学習・準備が十分にできていないためである。実習前指導において、学生の目的意識や意欲を引き出すとともに、それらを学生が具体化していくための実効ある方策が必要である。
- (5) 実習後においては、実習を遣り終えた学生個々の学びや思いを、教員が受けとめるとともに、学生が相互に共有化して、次回の実習、ひいては保育現場で生かせるような指導プログラムも必要と感じられた。

参考文献

- (1) 「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(1)」山田康彦，林田勇蔵，濱田芳子，佐々木昌代，宮崎女子短期大学紀要第22号，1996
- (2) 「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(2)」林田勇蔵，濱田芳子，佐々木昌代，宮崎女子短期大学紀要第23号，1997

[1999年11月30日 受理]

幼稚園教育実習についてのアンケート

平成10年 6月 保育科

この調査は、幼稚園教育実習の現状を把握するために実施するものです。ご協力をお願いします。

保育科 クラス() 学籍番号() 氏名()

1 実習にあたって、どのような目標を持ってのぞみましたか。

ア はじめから明確な目標を持ってのぞんだ → 具体的に書いてください。

イ 実習の経過とともによりはっきりした目標、実習前とは別な目標を持つようになった → 具体的に書いてください。

ウ 明確な目標を持ってのぞまなかった

2 実習を終えて、1の目標が達成できたよ実習であったと思いますか。

ア 十分であった イ ほぼ十分であった ウ どちらともいえない
エ やや不十分であった オ まったく不十分であった

3 2でそのように思った理由として、以下の項目それぞれについて答えてください。

(項目ごとに、特に気付いたことや意見等があれば、下の欄に具体的に書き添えてください。)

①目的意識・意欲 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

②事前学習 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

③専門的知識・技術 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

④研究保育 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑤子どもたちとの関わり 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑥先生方とのコミュニケーション 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑦園の保育方針等の理解 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑧保育者としての適性 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑨その他 → 具体的に書いてください

保育所実習についてのアンケート

平成10年12月 保育科

この調査は、保育所実習の現状を把握するために実施するものです。協力をお願いします。

保育科 2年()組 学籍番号() 氏名()

1 実習にあたって、どのような目標を持ってのぞみましたか。

<保育実習Ⅰ(2月の実習)>

ア はじめから明確な目標を持ってのぞんだ → 具体的に書いてください。

イ 実習の経過とともによりはっきりした目標、実習前とは別な目標を持つようになった → 具体的に書いてください。

ウ 明確な目標を持ってのぞまなかった

<保育実習Ⅱ(11月の実習)>

ア はじめから明確な目標を持ってのぞんだ → 具体的に書いてください。

イ 実習の経過とともによりはっきりした目標、実習前とは別な目標を持つようになった → 具体的に書いてください。

ウ 明確な目標を持ってのぞまなかった

2 保育実習ⅠⅡを通して、1の目標が達成できたよい実習であったと思いますか。

ア 十分であった イ ほぼ十分であった ウ どちらともいえない

エ やや不十分であった オ まったく不十分であった

3 2でそのように思った理由として、以下の項目それぞれについて答えてください。

(項目ごとに、特に気付いたことや意見等があれば、下の欄に具体的に書き添えてください。)

①目的意識・意欲 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

②事前学習 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

③専門的知識・技術 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

④研究保育 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑤子どもたちとの関わり 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑥先生方とのコミュニケーション 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑦園の保育方針等の理解 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑧保育者としての適性 十分 ほぼ十分 どちらともいえない やや不十分 まったく不十分

⑨その他 → 具体的に書いてください